

高度脳血管病センター開設

予防手術も実施へ

柏葉脳神経外科

るケースが増えている。他施設の循環器外科や糖尿病内科などの連携強化を図るとともに、医療機関や患者・家族へ、センターの取り組みを周知していく考えだ。

豊平区の柏葉脳神経外科病院（寺坂俊介理事長・144床）は、高度脳血管病センターを開設した。中山若樹医師がセンター長に就任。専門外来を開設し、外科手術をはじめとする高度な集学的治療を展開していく。

同病院は1971年の開院以来、脳神経外科の専門病院として救急医療から在宅療養まで幅広い医療サービスを展開。各種の専門的な脳神経外科手術のほか、t-PA静

注療法や低侵襲の脳血管内治療も手掛けている。同センターは、北大で16年間、数多くの脳外科手術を行ってきた中山センター長を中心に医師3人体制で、脳動脈瘤、脳

動静脈奇形、脳血管の閉塞や狭窄など各種脳血管疾患を網羅し、特に高度の動脈瘤や動静脈奇形に対してハイレベルの治療を展開する。

近年、MRIの普及などで、脳血管疾患を未然に防げるケースが増えてきた。こうした発症前の段階に対しては、各診療科と連携した予防も大切

だが、状態に応じて手術

も必要になる。

手術は、患者にとつても効果的な術式を選択。患者・家族にはその必要性和リスクを深く理解してもらつたことを重視し、丁寧なインフォームドコンセントのもとで本人の意思を尊重し、最善の医療を提供していくスタンスだ。

中山センター長は、同じ疾患の手術でも、術野

の視認性や得られる根治性に差異があることを念頭に置きつつ、「より高い質を求めて、その過程についても妥協することなく高度な技術を展開していきたい」と話す。

毎年、数多くの治療を行っている同病院の豊富な症例数を生かし、医師の育成にも尽力。大学から若手や研修医を受け入れるほか、道内外からの手術見学にも応じていく。

一方、北大時代から、高度な手術手技を次世代に引き継いでいくための「手技の言語化」をテーマに研究してきた。従来からの「見て学ぶ」から、「体系化された技術」を学ぶ教育の実践を進め、今後も大学と連携しながらAIやVR、ARを駆使した手術の科学的な分析を継続していく。

患者は年々高齢化し、さまざまな合併症を有す



北大で数多くの手術を行ってきた中山氏がセンター長に就任